

# おおた社会福祉士会会報

第84号

2016年(平成28年)1月14日発行

発行：おおた社会福祉士会事務局

責任者：田端千英

連絡先：〒146-0082 東京都大田区池上7-13-14

電話・FAX 03-6410-6051

E-MAIL otachikukai@gmail.com



(メール配信への切り替えをご希望される方は、「お名前」と「メール配信希望」の旨をこちらまでお願いします。)

## 年頭のご挨拶

おおた社会福祉士会 会長 田端千英

新年明けましておめでとうございます。

旧年中はおおた社会福祉士会へのご支援とご協力を賜り、誠に有難うございました。

おおた社会福祉士会は、社会福祉士としての専門的技能の研鑽と専門職相互の連携を図り、社会福祉に貢献することを目的に「地域包括ケアシステム構築」に向けた活動を展開して参りました。

昨年11月に実施された一億総活躍国民会議では、国民一人ひとりの個性と多様性が尊重され、家庭でも地域でも職場でも生きがいを感じることができる社会を創ることが経済成長の加速をもたらすとされています。少子高齢化は構造的な課題であり、若者も高齢者も、障害や難病等のある方も、一度失敗を経験した人も、みんなが活躍できる社会の安心感を醸成しなければなりません。

その人らしく生き抜くための満足感・充実感・納得が得られるための取組み、個人と家族と地域と社会はどうあるべきかを考察し、提言していく専門職であり続けたいと願っています。自立と社会参加を推進する社会福祉士として、今後も精進努力して参りたいと思います。

会員の皆様には更なるご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

### ※事務局よりお知らせ

昨年末に東京社会福祉士会より、14年秋から15年秋に新規入会された会員のうちおおた地区に在住勤務している会員の住所録が提供されました。今号よりその皆様にもこの会報をお送りいたします。メールでも配信しています。メールでも良い方は標題のメールアドレス宛にお知らせください。

また、おおた社会福祉士会の情報はホームページにも掲載しています。こちらもお覧ください。⇒<http://ota-amity.lovepop.jp/index.html>



平和島で遺品整理・福祉整理「あんしんネット」事業部部長をされている石見良教氏に、「高齢者の住環境の実態から見る、地域包括ケアシステムの違和感」と題して、ご講演をいただきました。

まず、「福祉整理」と「遺品整理」について説明がありました。

**福祉整理**・・・認知症または精神疾患から、ごみの分別（ごみ出し）ができなくなり→ごみ部屋→体調を崩したり入院に至ったところで、介護サービスが受けられるように福祉住環境を整備すること。（介護サービスが入るようになると、二度とごみ部屋にはならなくなる。）

**遺品整理**・・・ごみ部屋となつてから、入院後または部屋で亡くなってから、遺品を整理（処分）すること。

それから、遺品整理の現場のようすについてご報告いただきました。

金額的には、1K～1DKで、家電処理を含めて通常の遺品整理であれば15～20万円のところ、ごみ部屋となつていて積み上げられていると30～70万円。さらに孤独死の場合にはリフォームで30万円ぐらいかかるとのことでした。よって孤独死でしばらくして発見されたときには合計約100万円が遺族の負担となり、相続放棄した場合には大家さんが負担（保険が使える場合あり）するそうです。

孤独死のケースだと、臭いはとてもひどく、石見氏でさえも「現場に行きたくない」と今でも思われるそうです。臭いが外に出ないように、窓を閉め切り、エアコンも運転すると臭いが中に付いてしまうために夏でも動かさない中での作業だそうです。また、冷蔵庫などは、中の食料品などが腐敗していることもあるので、不用意に扉を開けて臭いで気分を悪くしないようにとアドバイスもありました。

また、孤独死について3つに分類されてご説明いただきました。

**①中層年独居者の孤独死（孤独死第1予備軍）** 40～60代で、特に行政等とつながりのない人（行政は把握していない）。全体の8割ぐらいがこのパターン。亡くなってしばらくたってから臭いなどで判明。または勤労者の場合は、出社しないことですぐに判明。

**②認知症に伴う高齢独居者の孤独死（孤独死第2予備軍）** ごみの処分ができなくなり、ごみが部屋におさまりきらなくなって、ベランダに出したり、自分の居場所がなくなりガレージの自動車内で寝泊まりする様子で、民生委員が気づいた例など。周囲の支援体制が整えば、住環境を改善することができる。

**③生活保護受給者の孤独死（孤独死第3予備軍）** 40～60代の男性が多く、徐々に増える傾向にある。生活保護なので行政は把握できている。

「孤独死=高齢者」の定義はあてはまらない！

**孤独死第1予備軍**

ここ数年急増している  
「中・壮年層」独居男性の孤独死

【現場の特徴と人物像】

- ①いつもカーテンを閉め切つて、部屋の中が暗い
- ②室内に多くのゴミがたまって、不衛生
- ③成人病疾患（主に糖尿病）である
- ④糖尿病の治療薬が散まらずに置いてある
- ⑤室内にアルコール飲料の瓶や缶が散乱
- ⑥離婚によって独身となった
- ⑦リストラで離職、定職に就いていなかった
- ⑧親族や知人との連絡が取れていなかった
- ⑨公共料金の督促がある
- ⑩サラ金のカードと督促状がある
- ⑪室内に洗濯物が多く干されている

都内・46歳独身男性の現場

都内・58歳独身男性の現場

「孤独死=高齢者」の定義はあてはまる！

**孤独死第2予備軍**

認知症患者数は、予備軍を含めて850万人超！

今急増している  
独居「認知症」高齢者の孤独死

2030年には独居世帯は2000万世帯に！

【現場の特徴と人物像】

- ①室内に多くのゴミがたまって、不衛生
- ②コンビニ袋を使って、何でも収納
- ③昔からの洋服を大事に収納
- ④外で拾い集めた不用品の山
- ⑤大量の缶詰やレトルト商品の山
- ⑥小銭が散乱している
- ⑦他人を室内に入らせせない
- ⑧ゴミブリヤネズミがいても気にかけない
- ⑨被害妄想の症状がある
- ⑩社会と孤立している(開かずの扉化)
- ⑪身寄りのない高齢者である
- ⑫室内は害虫が多い(蜘蛛の巣部屋化)

都内・87歳独居男性の現場

今、急速に増えている！

**孤独死第3予備軍**

東北の震災以降に増えている

都内・65歳の受給者  
独身男性の現場

**「生活保護受給者」の孤独死・孤立死**

**217万4331人** (生活保護受給者数 2015年3月現在)  
うち65歳以上の世帯は47%⇒増加中

【現場の特徴と人物像】

①家財は少ない	⑤アルコール飲料の空き缶や空き瓶が散乱している
②身寄りがない(無縁)	⑥コンビニ弁当の食べ残しが散乱している
③行政とのつながりは「生活保護」のみ	⑦室内は埃がたまり、掃除を何年もしていない
④通院していても、薬を飲んでいない	⑧競馬や競艇の抽選券が散乱している
	⑨遺品を見ると、明らかに社会と孤立しているのがわかる

**孤独死第1予備軍** と **孤独死第3予備軍**

・本人の意識改革と、生活改善の実行を待つしかない！  
・見守りや支援システムの構築は難しい

**孤独死第2予備軍**

・ご本人は、今の生活状況を把握できず、不衛生で極悪な環境にいるので、回りが支えて見守ってあげないと、行き着くところは、「孤独死」や「孤立死」となる。

まとめとして、いくつかの提案をいただきました。

- ・福祉整理にあたって、区の清掃担当との連携をとりたい。また、生活保護などの場合、ふたたびごみ部屋にならないように、区から指導をしてほしい。
- ・認知症高齢者等の見守り体制の充実・・・本人が信頼している人（たとえば民生委員）をキーとして、ケアマネ、福祉・医療機関、行政、包括、清掃、警察、消防、社協・・・との連携。
- ・社会福祉士には成年後見の中心的存在になってほしい。死後の事務などについて、政策提言をしっかりとしてほしい。
- ・そして、社会福祉士の認知度を上げてほしい。

石見氏には、定例会後の懇親会にもご出席いただき、さらに深いお話をうかがうことができました。

ごみ部屋にならないような周囲の気づきと支援、孤独死で何日も経ってしまわないような日頃からの見守りなどの必要性を再確認する機会となりました。

**リレーエッセイ 大塚道子**

平成26年12月からさわやかサポート蒲田で見守りコーディネーターとして働いています。以前は八王子市の地域包括支援センターで働いていました。

職場は京急梅屋敷駅から徒歩4分の特別養護老人ホーム蒲田の1階にあります。

蒲田にきて最初にびっくりしたことは、「坂がないこと」「自転車の数がものすごく多いこと」「商店街がたくさんあること」「地面が凍結しない事」「冬でも高齢者の方が活発に活動していること（八王子より寒くないから?）」「銭湯が多いこと」「熱中症対策に熱心なこと」「飲み会が多いこと（とてもうれしい!）」などです。

見守りコーディネーターとして、高齢者の方や介護事業所はもちろんのこと、商店街・NPO・町会自治会・警察・消防・老人会・区役所等と連携しながら、高齢者の方が安心安全に地域で暮らしていくにはどうしたらいいか日々考えています。

最近、こどもさんや民間企業の社員と関わる機会も増えてきています。

地域には若いパワーが必要であるし、子供の頃から高齢者の方の特性を理解もしていただければと思っています。



認知症サポーター養成講座もおこなっています。

蒲田の方そして日本中の方に、認知症を「タニンゴト」ではなく「ジブンゴト」として考えていただければ、認知症の方にやさしい地域ひいては地域住民全員にやさしいまちになるのではないかと考えています。

都会で自転車に乗ることにまだ不慣れなのでヨロヨロとこいでいますが、道で私を見かけたら是非声をかけてください！！

写真はさわやかサポート蒲田の、食べることが大好きで素敵なメンバーです。



## 1～2月 定例会のお知らせ

### 1月 定例会「ソーシャルワーカーの視点から、虐待にどう向き合うのか」

在宅・施設での虐待の現状の説明だけでなく、虐待してしまう家族や施設職員側の心理なども含めて、社会福祉士や成年後見人（ソーシャルワーカー）の視点から「虐待にどう向き合うのか」についてご講演いただきます。

日 時：1月20日（水）午後7時～8時30分

会 場：大田区消費者生活センター2階 第6集会室

講 師：川端伸子氏（公益社団法人あい権利擁護支援ネット）

参加費：500円（資料代等）

担 当：権利擁護チーム

### 2月 定例会「おおた地域包括ケアシステムをすすめる会」の取り組みについて

日 時：2月17日（水）午後7時～8時30分

会 場：大田区消費者生活センター2階 第6集会室

講 師：浜 洋子 氏 ○おおた地域包括ケアシステムをすすめる会 代表 ○NPO法人福祉コミュニティ大田 代表 ○ケアステーション らっこ 管理者・主任ケアマネジャー・代表

参加費：500円（資料代）

担 当：地域福祉チーム

**編集後記** 昨年スマホによるホームページの閲覧が、パソコンを上回ったそうです。だんだんスマホ対応のサイトが増えているなあと思っていたら、グーグルやヤフーの検索では、スマホ対応のページが上位に出る（パソコンのページは下位にまわってしまう）のだそうです。そして今年は、動画が上位に出るのだそうです。流れについていけるかなあ・・・わが会のページはどうなる？（平）